

HAY

INTRODUCING NEW DESIGNS FROM HAY

NEWS

2025

HAY

DESIGN IN DIALOGUE



HAY'S WAY OF WORKING: THOUGHTFUL AND OPEN

HAYでは、デザインを絶えず変化し続ける生きた創造と捉えています。それは、素材や手法、そして考え方への新たなアプローチを通じて、絶えず進化し続けるものです。

HAYの願いは、日常に開かれた良質なデザインを届けること。世界を代表するデザイナーと共に、家具や照明、アクセサリーを通して、ただ作るのではなく、より心地よく、より豊かにする道を探り続けています。HAYでは、循環性と耐久性を重視し、修理可能性も積極的に取り入れています。テキスタイルの張力で形作られたラウンジチェア、再生プラスチックの多目的シート、分解できるモジュラーソファ——それぞれがデザインの仕組みに問いかけ、新しい可能性を示しています。

こうした考えは、最新の家具コレクションに形となって表れています。O2 LOUNGE CHAIR、LAYOUT ARMCHAIR、そしてマリオ・ペリーニが手がけたイタリアデザインの名作、AMANTA SOFAの復刻版。形や用途は異なっても、込められた意図はひとつ。素材と向き合う誠実さ、長く使うことへの意識、そして暮らしに寄り添うデザインという変わらない信念です。

私たちの思想は、復刻プロジェクトへのアプローチにも通じています。今年復刻された「AMANTA SOFA」は、1934年のCRATE COLLECTIONや1970年代のREY COLLECTION、X-LINE CHAIRなど、HAYがこれまで行ってきた意義ある名作復刻の流れを受け継ぐ一作です。それは、単に過去を懐かしむのではなく、モジュール性や時代を超えて価値を保つデザイン、そして素材へのこだわりといった原則が、現代の暮らしにも息づくからです。私たちは、デザインの歴史に敬意を払いながら、その精神が未来でも生き続けるようにと願っています。

あるデザインを現代に蘇らせるとき、まず問いかけるのは「この時代に必要とされているだろうか？」ということです。時代や場所を越えて心に残るアイデアをすくい上げ、それらを新しい世代へとつなぐための進化のかたちを探し続けています。

イノベーションは、閉ざれた場所からは生まれません。未知を探り、思いがけない視点を迎え入れるとき、新しい可能性が形になっていきます。HAYでは、時代に寄り添うために、既成概念にとらわれず、新たな視点や声を積極的に取り入れています。そのために私たちは、既成の枠を超え、まだ出会っていない声や視点を積極的に探し続けています。私たちは、対話からインスピレーションを得ます。

アーティストや建築家、食やファッションなど異なる領域で挑む人々との交わりが、デザインの可能性を静かに広げてくれるのです。オリジナリティは、異なる領域が交わる場所で生まれます。分野や視点が交錯し、既成の枠が緩んだとき、新しいものが自然にかたちを成していきます。

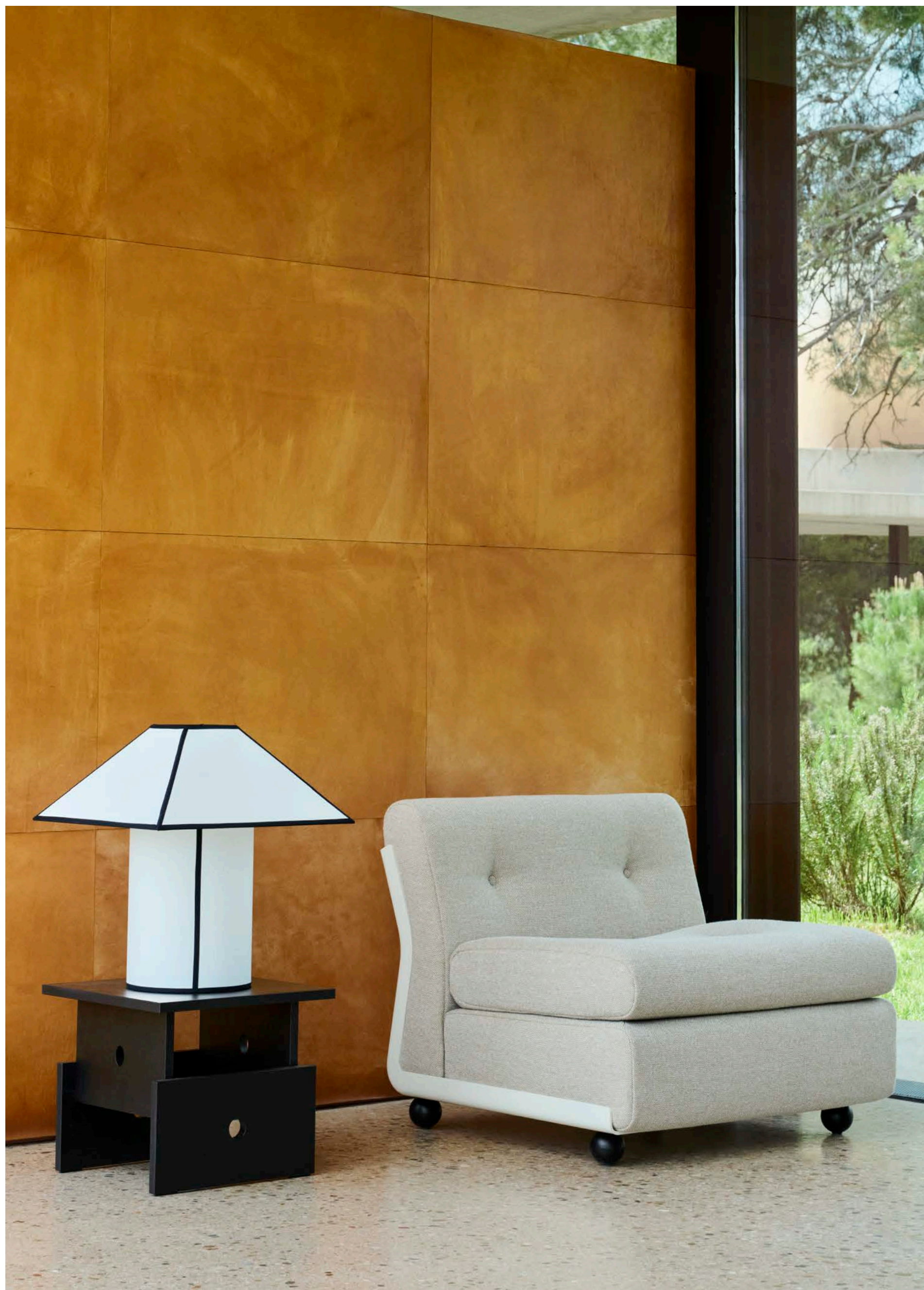
その精神が形になったのが、アメリカ人アーティスト、エマ・コールマンとの最新テーブルウェアコレクション、LA PITTURAです。彼女の描くのびやかな線が、手描きの陶器にやわらかな生命を吹き込みます。日常の道具に、人の手の温もりがそっと刻まれています。このコレクションは、ただ使うためのものではなく、触れることで感情を揺さぶり、物の持つ感情的な側面もまた、形と同じくらい大切であることを教えてくれます。心に残るデザインは、多くの場合、ひとりひとりの感覚から生まれるのです。

デザインの変化は、時間とともにじっくりと形を成します。私たちは、その歩みを焦らず、意図をもって一步步進めています。昨日より今日、少しでも良くなった自分を感じながら、明日はさらに前を目指す。この姿勢が、毎日の私たちを支えています。HAYでは、美しさは暮らしのあらゆる瞬間に息づくものと考えています。そして、芸術と産業、好奇心の対話の中でこそ、新しい価値が生まれるのです。



FURNITURE NEWS

HAYの新たなコレクションの一環として、1966年に誕生したイタリアデザインの代表作であるマリオ・ベリーニによるAMANTA SOFAが復刻
ジュリアン・ルノーのLAYOUT ARMCHAIR、ジョン・ツリーのANNEX
TABLE、ジョナサン・ミュークのWOOD BOX COFFEE TABLE、ミ
ラー・ヴァン・セヴェレンのPERFORATED CABINETも発表されました。



AMANTA SOFA BY MARIO BELLINI REISSUED BY HAY



HAYの共同創設者であり、家具・照明部門のクリエイティブディレクターであるロルフ・ヘイとマリオ・ペリーニ。ミラノの自宅にあるスタジオにて。

AN ITALIAN DESIGN ICON OF MODULARITY AND MODERN LIFE

90歳を迎えたイタリアの建築家でありデザイン界の巨匠、マリオ・ペリーニ。彼が1966年に手がけたAMANTA SOFAは、単なる家具の誕生にとどまらず、室内空間が人々の交わりや暮らしを形づくる可能性を示す、先進的なデザインでした。モジュラー式の設計と高さを抑えたシルエット、彫刻のような美しい佇まいが、当時の常識を覆し、集うこと、くつろぐこと、共に過ごす時間の新しい形を提示しました。ほぼ60年を経て、HAYは素材を現代仕様に更新しながら、そのスピリットは変わることなく受け継がれています。それは、ペリーニのデザインアプローチがいまなお持つ普遍的な価値を示す証でもあります。

2025年秋のAMANTAの復刻を控え、HAYはミラノ・トリエンナーレ国際展示会のデザイン・ファッション・クラフト部門キュレーターであり、ムゼオ・デル・デザイン・イタリアーノ（Museo del Design Italiano）のディレクター、マルコ・サンミケーリにインタビューを行い、ペリーニの影響やAMANTA誕生の文化的背景について語ってもらいました。

既成概念を打ち破る1960年代のAMANTA

1960年代後半、イタリア全土で社会の解放と新しい創作の試みが花開いていました。この時代の解放的なムードから生まれたAMANTAは、浮遊クッションとシームレスなシェルを特徴とする柔軟な座席システムで、従来の家庭用家具の固定概念を打ち破りました。当時としては画期的だったAMANTAは、ガラス繊維などの工業素材を流動的に活かすだけでなく、座るという行為そのものを変え、自由でみんなで楽しむライフスタイルを提案しました。

「AMANTAは時代を先取りしただけでなく、当時の文化そのものを形作りました」とサンミケーリは言います。現代においてもAMANTAは、人の動きや会話、自由な使い方を促す、社会的に機能的なデザインとして存在しています。

デザインのDNAに息づくアイデアとイノベーション

ペリーニのデザインは従来の手法に収まることはありませんでした。サンミケーリによれば、ペリーニはル・コルビュジエのモダニズム原則を採り入れつつ、金属フレームを露出させず、一体化されたソフトな構造で表現しました。AMANTAにおいては、ミース・ファン・デル・ローエのバルセロナチェアの構造的な発想を応用し、さまざまな空間で柔軟に使えるモジュール式システムを実現しました。こうして誕生したソファは、建築的な精密さと快適な座り心地を両立させ、機能と美の両立を重んじるペリーニの広い視野を体現しています。

枠にとらわれないデザインを追求するマリオ・ペリーニ

1935年にミラノで生まれ、建築を学んだペリーニは、活動の初期から分野の枠にとらわれない活動をしてきました。



戦後のイタリアで育った彼は、建物だけでなく人々の暮らし方そのものを再考し、デザインを文化の再生の手段として用いた世代の一員でした。

この幅広い視野こそが、ペリーニの創作の根幹を形作るものでした。彼の多面的な思考は芸術や建築、歴史、自然の要素を自由に取り入れ、実用性と情緒を兼ね備えた作品を生み出しました。「現代のレオナルド・ダ・ヴィンチであるかのように、ペリーニは世界をデザインの尽きることのない源として活用しました。まさにイタリア的なアプローチです」とサンミケーリは言います。こうした自由な発想の掛け合わせが、AMANTAのような奥行のある文化的に価値あるデザインを形作りました。

ペリーニはイタリアの日常の暮らしのリズムを敏感に感じ取り、そこから創作の着想を得ていました。「できる限り多くの人々の日常にデザインを」という想いは、AMANTA SOFAに息づく直感的で社交的なデザインや、他の代表的なデザインや建築作品に反映されています。

イタリアから世界へ広がる文化のうねり

デンマーク・ミッドセンチュリー・デザイン黄金期を経て、1970年代は文化的な転換期を迎えます。サンミケーリによれば、イタリアのデザイン界は、「イタリア製」の精神に支えられ、職人の技巧と産業的革新が融合した新たなエネルギーに満ちあふれていたといいます。ファニチャーとライティングのクリエイティブディレクターを務めるHAY共同創設者のロルフ・ヘイは、この重要な時代をこう振り返ります。「1950～60年代の輝かしい時代を経て、デンマークやスカンジナビアのデザインが次の方向性を模索する過渡期に入った頃、イタリアのデザインは斬新なアイデアとエネルギーを携え、現代の暮らしを捉え直す新しい考え方を提示しました。マリオ・ペリーニは、この波を象徴するデザイナーの一人なのです」。AMANTAは、イタリアデザインの伝統を受け止めつつ、新しい発想と日常の暮らしに寄り添う柔軟さを兼ね備えたソファです。

HAYによるAMANTAの現代的継承と復刻

AMANTAの復刻にあたり、HAYはペリーニのオリジナルの意図を守りながら、現代の暮らしに合うようアップデートしました。シェルはかつてのファイバーグラスから、99%使用済み再生ABS樹脂へと変更され、クッションには94%バイオバランスフォームが用いられています。

また、HAYが選んだ新しいシェルカラーと、多彩なファブリックやレザーのオプションにより、個々の好みに応じたコーディネートが可能です。さらに、ソファ全体を分解できる設計により、メンテナンスや修理がしやすく、耐久性も向上しています。

「HAYは伝統を受け継ぎながらも、長く愛される製品を大切にし、私たちの暮らし方や消費の在り方を見直す、ヨーロッパデザインの新しい考え方を体現しています」とサンミケーリは語ります。ペリーニもまた、良いデザインとは飾るためだけでなく、日常をより心地よく豊かにするものであると考えていました。

現代のライフスタイルに寄り添うソファ

AMANTAは時代を超えて、座り、集まり、共に過ごす時間を自然に導く存在です。そのモジュール式の柔軟性、彫刻のような美しい佇まい、人間を中心に据えたデザインは、誕生当時と変わらず、今もなお日々の暮らしに欠かせない力を持っています。

「AMANTAはモダンデザインのアイコンとして、歴史の重みを現代の空間へと受け継いでいます」とサンミケーリ。HAYはこの復刻を通して、イタリアデザインの歴史を守りつつ、革新・クラフト・人々の暮らしが三位一体であることをあらためて伝えています。







DESIGNER JULIEN RENAULT



LAYOUT CHAIR BY JULIEN RENAULT



A LANDSCAPE OF POSSIBILITIES

HAYにとっての優れたデザインとは、私たちが生きる世界に呼応する、ダイナミックで、表現力があり、そして意図をもってつくられたもの。LAYOUT ARMCHAIRはそんなHAYの思想を体現する、汎用性と意識を兼ね備えたチェアのシリーズです。

「LAYOUTは、初期のプラスチック製シェルチェアが花開いた黄金期—エレガンス、革新性、多用途性が融合したモダニズムの時代—への明確なオマージュです」と、フランス人デザイナーのジュリアン・ルノーは語ります。「同時に、このコレクションは独自の個性を確立する必要がありました。新しく、柔軟で、さまざまな環境に自然に溶け込めるものとして」

オープンバックのシェルには使用済み再生プラスチックを96%以上使用。デザインに軽やかさをもたらすと同時に、ユーザーの動きに自然に寄り添います。

長く使い続けられるよう設計されたLAYOUTは、すべてのパーツを分解・修理・交換できる構造を備え、製品寿命を延ばしながら、循環的なデザインアプローチを体現しています。張地仕様のモデルでは、控えめなファスナー付きの取り外し可能なカバーを背もたれのカットエッジに収め、接着フォームを使わずに簡単に着脱・交換できるようにしています。

「これは単なるひとつの椅子ではありません。柔軟に形を変え、構成を選び、単体のチェアという枠を超える—そんなコレクションなのです」と、ルノーは語ります。

パーツを自由に組み合わせられるLAYOUTは、幅広い選択肢を提供します。シェル、ベース、脚部、張地の多彩なバリエーションを掛け合わせることで、ワークプレイスや公共空間から住宅まで、あらゆる環境にフィットする無限の構成が可能に。柔軟性と快適さ、そして緻密に考え抜かれたデザインを、日常のなかにもたらすシーティングシステムです。







PERFORATED CABINET BY MULLER VAN SEVEREN



GEOMETRIC EVERYDAY STORAGE

大胆な色使いと彫刻的な造形で知られるベルギーのデザインデュオ、ミュラー・ヴァン・セヴェレンが手がける PERFORATED CABINETは、形や透け感、フォルムの視点から収納の新しい可能性を示しています。

粉体塗装スチール製の本体には格子状に穴が開けられており、隠すことと見せることの絶妙なバランスを実現しています。透過性のある素材が収納物をさりげなく隠しつつ、視覚を完全には遮らないという、オープンシェルフと扉付き収納の中間的機能を実現しています。

PERFORATED CABINETは、壁付けタイプと床置きタイプをさまざまな色とサイズで展開し、物をしまうという日常の動作に、彩りと個性をもたらします。

ANNEX TABLE BY JOHN TREE



さまざまな素材、形状、サイズを取り揃え、ラウンド型やオブロング型の天板もご用意しております。脚部の位置はオーバーハングタイプとフラッシュタイプからお選びいただけます。オプションのケーブルマネジメントを追加すれば、さらに高い機能性を実現することもできます。

A CONSTANT IN CHANGING SPACES

空間の役割が一日のなかで変化するように、テーブルの役割も仕事、食事、会話、静かなひととき…と多彩に変化します。この柔軟性を意識して生まれたANNEX TABLEは、建築美を感じさせる強固な構造と均整の取れたフォルム、そして空間に自分らしさを添えるさりげない提案が融合した多用途なコレクションです。

ANNEXはオークの無垢材と再生アルミニウム（使用済み再生アルミニウムを75%使用し、欧州で押出加工したもの）を厳選して組み合わせています。耐久性に優れた多彩な天板は、使用済み繊維を70%を使用したKvadrat Really社のTextile Tabletop™に加え、リノリウム、ラミネート、オーク突板からお選びいただけます。素材の良さを活かしつつ、落ち着きと信頼性を感じさせるANNEX。昔ながらのファームハウステーブルのつくりを、現代的なスタイルと技術で再考したフォルムです。豊富なサイズや高さ、仕上げを取り揃え、変わりゆくニーズと持続的な使用にしっかりと寄り添います。







DESIGNER JONATHAN MUECKE



WOOD BOX COFFEE TABLE BY JONATHAN MUECKE



A SCULPTURAL PRESENCE

アメリカ人デザイナー、ジョナサン・ミュークが初めてHAYのためにデザインしたWOOD BOX COFFEE TABLEは、家具でありながらアートのような、細部までこだわったディテールと謎めいた魅力が特徴のコンパクトなアイテムです。オークの無垢材をジョイントを見せずにパズルのように組み合わせ、装飾はなくとも、その正確さと美しさに惹きつけられます。

ミュークのプロポーションとフォルムへの実験的なアプローチに根差したWOOD BOXは、コーヒーテーブルとしても彫刻としても楽しめる独特の存在感を放ちます。デザイン、アート、建築の融合を探求し続けるHAYの姿勢を反映し、こだわりぬいた限定品のようでありながら、より幅広い層にお使いいただけます。

O2 LOUNGE CHAIR BY JONAS FORSMAN



SITTING ON AIR: WHERE INNOVATION DEFINES FORM

O2 LOUNGE CHAIRは、最小限の素材で最大限の快適さを実現する、HAYのためにデザインされたラウンジチェアです。革新的なシュリンクフィットテキスタイルとスリムなスチールフレームの組み合わせにより、驚くほど安定感のある包み込むような座り心地と、ゆったりとした快適さを生み出します。“Less is more.”——その言葉を体現するデザインです。

ひと目見ただけで、HAYの新作O2 LOUNGE CHAIRは、ボリューム感のあるやわらかなフォルムと、軽やかで開放的、そしてミニマルな佇まいを印象づけます。しかし、その特徴的なシルエットの背後には、決して平凡ではないプロセスが隠されています。本作は、スウェーデンのデザイナー、ヨナス・フォルスマンによるHAYでのデビュー作。強度のあるスチールパイプフレームと、特別に開発されたテキスタイル——この2つの主要素材によって、座るという行為の本質を凝縮しています。「私は常に素材から発想します。素材が張力のもとで

どのようにふるまうか、そしてその特性をどう形づくりに生かせるかを考えるのです。余計なものを加えずに」とフォルスマンは語ります。

製造工程では、縫製したファブリックカバーをフレームにかぶせたのち、椅子全体をオーブンに入れます。熱によって生地が収縮し、フレームにびたりと密着することで、シームレスで自立する構造が完成します。その仕上がりは、工学的でありながらどこか自然体。テキスタイル、構造、空間のあいだに生まれる張力によって形づくられているのです。「言ってみれば、この椅子に使われている“第三の素材”は“空気”なのです」とフォルスマンは付け加えます。

シート部分には最小限のフォーム層を使用し、広がりのあるフレームの中に心地よいクッション性を持たせています。しかし、ヨナス・フォルスマンが目指したのは、従来の張り加工の常識に挑み、可能な限り素材の使用を抑えることでした。

「あなたが最初に持ち込んだのはとても意義のあるアイデアでした——“張り加工にフォームを使わない”という発想です」と語るのは、HAYの共同創業者であり、家具・照明部門のクリエイティブディレクターを務めるロルフ・ヘイ。「そして最終的に、あなたはシンプルで、快適で、美しい椅子を生み出したのです」

O2 LOUNGE CHAIRの快適さは、素材の張力と空間との関係から直接的に生まれています。テキスタイル、スチール、そしてそのあいだにある空気——まさにその“空気”こそが、この椅子の名前の由来です。

このデザインアプローチは、従来の張り加工とは一線を画すもの。限られた素材でも豊かな快適さを生み出せるという発想を新たにし、静かなる素材科学の成果として結実しています。それはフォルムを形づくるだけでなく、HAYが掲げる“内側から機能する革新”という理念をも体現しています。



DESIGNER JONAS FORSMAN



単一のテキスタイル素材に、幅広いカラーバリエーションを展開。同じシュリンクフィット製法で仕立てられたO2 OTTOMANとの組み合わせも可能です。

ACCESSORIES NEWS



HAYの最新アクセサリは、日々の道具への深い愛情を込めて、暮らしに彩りと機能性をプラスします。クッションやラグ、ブランケットなどのやさしいインテリアから、モダンなキッチン・ダイニングまで、エマ・コールマンが手がける生き生きとした表情のLA PITTURAテーブルウェアコレクションも含め、多彩なアイテムが揃います。さらに、ベッドやバス周りのアイテムも加わり、日常のあらゆる場面に心地よさと個性をもたらします。



LA PITTURA BY EMMA KOHLMANN

「最初に手にしたのは、コペンハーゲンのV1ギャラリーで購入したエマの水彩画でした。そのとき初めて彼女と出会うこともでき、作品と共に暮らせることの幸運を日々噛みしめています」とメッテ。それ以来、夫妻はコールマンの作品を集め続けており、油彩画や彫りを施した木枠の作品など、そのコレクションは今も広がりを見せています。

THE ART OF THE EVERYDAY

アートへの深い理解は、HAYを始める前から、メッテとロルフ・ヘイの暮らしの中に自然に根づいていました。この感性は、好奇心と創造力、そして良いデザインをできるだけ多くの人に届けたいという思いに支えられ、HAYのDNAを形作る重要な要素となっています。

HAYは、この理念のもと世界中のアーティストやクリエイターとコラボレーションを重ねてきました。美しさや技術、そして文化の中で果たすデザインの役割への共通の理解をもとに、HAYは作品をただ製品化するのではなく、アーティストの創造的な表現を日常に取り入れられる形へと翻訳し、人々が触れて体験できる小さなアートとして具現化しています。

マサチューセッツを拠点に活動するエマ・コールマンも、その精神を共有するアーティストのひとり。彼女の豊かな色彩とのびやかな線は、アクセサリーを担当するメッテ・ヘイの心に深く響いてきました。



「最初に手にしたのは、コペンハーゲンのV1ギャラリーで購入したエマの水彩画でした。そのとき初めて彼女と出会うこともでき、作品と共に暮らせることの幸運を日々噛みしめています」とメッテ。それ以来、夫妻はコールマンの作品を集め続けており、油彩画や彫りを施した木枠の作品など、そのコレクションは今も広がりを見せています。

彼らの個人的なつながりは、セラミックのテーブルウェアコレクションLA PITTURAとして形になりました。イタリア語で「絵画」を意味するこのコレクションは、コールマンの表現豊かなモチーフを日常の器に映し出したもの。プレートやマグ、ジャグなどに描かれたモチーフは、手に取り、使い、分かち合うことで暮らしに寄り添うキャンバスとなります。コールマン自身も「HAYのための絵画的コレクション」と呼ぶように、アートと日々の暮らしが自然に交わるコレクションとなっています。

アメリカ人アーティスト、コールマンの制作は直感的で、生き生きとしています。「線を引きながら、その流れに身を任せます」と彼女は語ります。神話や愛、渦を描く花の茎、人体、建築構造など、インスピレーションは多彩で自由です。LA PITTURAの制作にあたり、彼女はニューヨークのメトロポリタン美術館で視覚芸術の歴史をじっくりと探求しました。イタリア・ルネサンスの陶器やアールデコのデザイン、デンマーク陶芸などから着想を得ており、幼少期からの陶磁器への関心や、文化を超えた形の変化への好奇心が作品に息づいています。

「このコレクションはどれもが不完全です。人の手で作られているから完璧なものなどありません」とコールマン。筆跡や輪郭に残る人の痕跡こそが、この作品の魂です。



熟練の職人たちが彼女の表現を丁寧に読み解き、手描きのセラミックに命を吹き込みます。彼女にとって万物には命が宿っており、その感覚がモチーフに静かな生命力を吹き込み、器の表面からやわらかに広がっています。

「美しい器や手描きの皿で食事するだけで、彩り豊かな体験になります」と語るメッテが心惹かれているのは、作品から感じる生命力です。アートは物として存在するだけでなく、日常の小さな瞬間を彩るもの、と考えるメッテにとって、色やアートは太陽のようなもの。暮らしを明るく、元気にしてくれます。

「HAYのコレクションに20年以上携わるなかで、業界の枠を越えてさまざまな人と仕事ができることは、まさに夢のような経験です。そこから、新しいアイデアや思いもよらない発見が生まれます」とメッテ。アーティストと向き合う際は、いつもと異なるアプローチを心がけます。「彼らの世界を尊重し、介入せず、その表現の流れに身を任せています」

コールマンの作品の根底には、誰もが日常に取り入れやすいアートを作りたいという思いがあります。「多くの人が暮らしの中で使いたくなるものを作ることが大切でした」と彼女。この「特別な人だけでなく、誰もが手にできるアート」という考えは、HAYの創立理念とも重なります。LA PITTURA は、伝統的な意味での「貴重なもの」ではなく、使い、触れ、日常の中で自然に親しめるアートです。

コールマンの鮮やかな世界観は、この創造的な交流を通じて、日常にそっと新しいリズムを加えます。ひとつひとつの作品は、美しさが特別な場所にあるのではなく、手に触れ、食卓を囲み、日々の暮らしの中で感じられるものだを教えてくれます。



METTE HAY, HAY CO-FOUNDER AND CREATIVE DIRECTOR OF ACCESSORIES, WITH AMERICAN ARTIST EMMA KOHLMANN.





EMMA KOHLMANN: IN PRACTICE

エマ・コールマンは、ドローイングや絵画、ジン、デジタルアート、文章など、多彩な手法で国際的に活躍するアメリカのアーティストです。彼女の独特のビジュアル世界は、意図的にアートの敷居を下げ、より多くの人が身近に感じられる表現となっています。マサチューセッツ州アマーストのハンプシャー・カレッジでは哲学とフェミニズム理論を学び、芸術学士号を取得しました。

現在もマサチューセッツを拠点に、抽象と具象を行き来しながら、夢と現実、アイデンティティ、人間のあり方

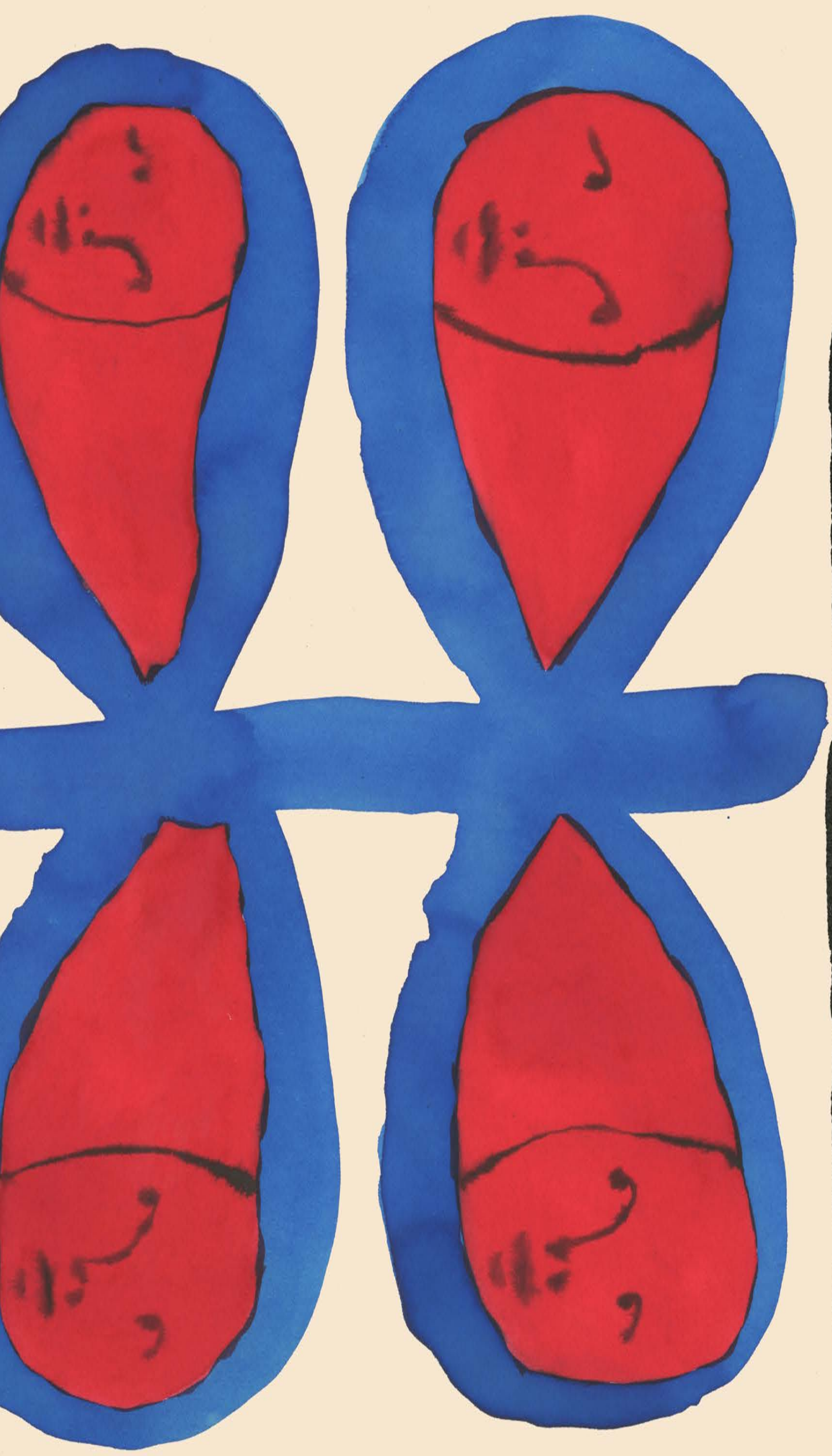
のあいだにある境界を、流動的で有機的なフォルムを通して探求しています。ジェンダーや流動性といったテーマを軸に、既成概念や境界、そして世界に対する一般的な理解を問い直すような表現を続けています。また、妹のシャーロット・コールマンとともにインクルーシブな出版コミュニティ「Mundus Press」を運営し、公平で手の届く出版活動に取り組んでいます。コペンハーゲンのV1 Galleryに所属し、デンマーク国内外で個展・グループ展を開催しています。





EMMA KOHLMANN
x HAY 2025

LA PITTTURA



LOOP BIN

LOOPは、シンプルなデザインと高い実用性を兼ね備えた長方形のペダル式ゴミ箱です。ソフトクローズ式の蓋とフットペダルにより、手を使わず静かに開閉でき、再生ABS樹脂製のバッグリングがゴミ袋をすっきりと固定します。ステンレススチール製でサイズやカラーも豊富。キッチンやバスルームなどあらゆる空間で活躍します。



BY LEIF JØRGENSEN





CURVE STEM GLASS AND CURVE TUMBLER GLASS



EVERYDAY TOTE BAG MINI



MULTI LAPTOP COVER



PAPER SHADE



COCO DOOR MAT



ANGLE CARAFE



TAVOLO NAPKIN / PLACEMAT



TINT COUPE GLASS



SQUARE CANDLE



DUO THROW



HAY MATCHES



FINELNE LONG NIGHTSHIRT



FINELNE DUVET COVER AND FINELNE PILLOW COVER



OUTLINE SLEEP MASK



TANN TOOTHBRUSH AND TOOTHBRUSH HOLDER



FINELNE LONG NIGHTSHIRT



LOOP BIN BY LEIF JØRGENSEN



SHOPPER BAG



MULTI WASH BAG



FINELNE DUVET COVER AND FINELNE PILLOW COVER



FINELINE DUVET COVER AND FINELINE PILLOW COVER

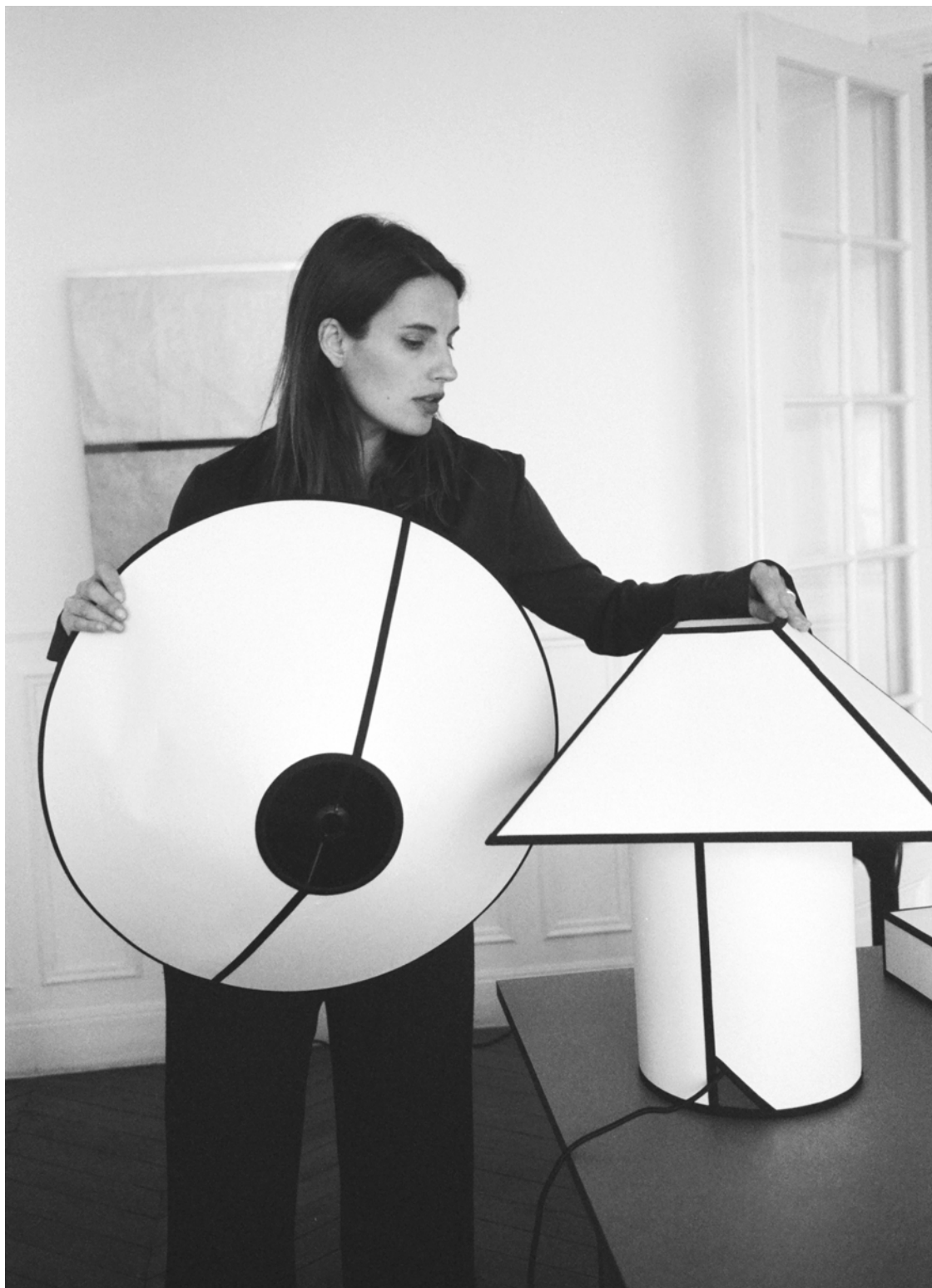
LIGHTING NEWS



アナ・クラッシュ、ジュリアン・ルノー、ロマン・スィヨンによる新作照明がHAYから登場します。AVAランプシリーズの柔らかくグラフィカルな表情、COMPASS PENDANTの方向性ある光、TWIST FLOOR LAMPの空間演出——それぞれが光と形、日常の使い方に独自の視点を添えています。

AVA LAMP SERIES

2021年、パリの新居でワイヤーや紙、テキスタイルテープを即興で組み合わせて生まれたAVAは、そのひらめきをテーブルライト、ウォールライト、ペンダントライトへと展開しました。シェードはリサイクルPET素材のECOPET™で製作され、グラフィカルなファブリックパイピングで仕上げられています。紙のように軽やかで柔らかな光を放ち、シンプルな形と穏やかな佇まいが、クラシックなランプシェードを現代の暮らしに自然に溶け込ませます。



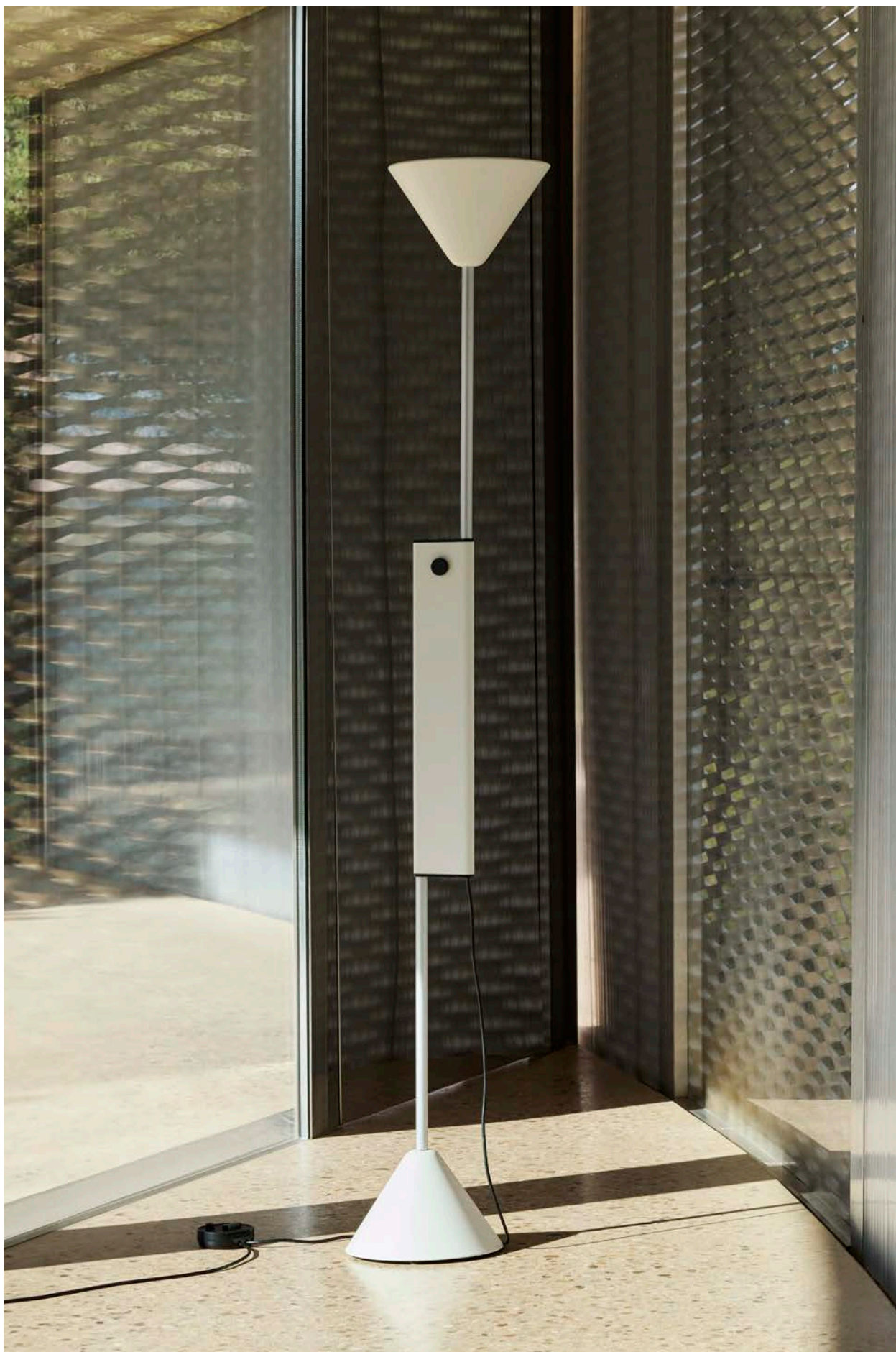
MULTIHYPHENATE CREATIVE ANA KRAŠ



BY ANA KRAŠ

TWIST FLOOR LAMP

フランス人デザイナーによるHAYでのデビュー作
TWISTは、彫刻のような佇まいを持つアップライト
ランプです。中央のシャフトを軽く引くと高さを調
整でき、光源の位置に合わせてランプの表情や空間
の雰囲気が静かに移ろいます。



BY ROMAIN SILLON

COMPASS PENDANT



洗練されたフォルムと直感的な操作性を備えたCOMPASSは、クラシックなペンダントランプを現代的に再解釈したデザインです。角度のついた円錐形のシェードとグラフィカルなアルミニウムの構造が、空間に静かな秩序と落ち着きを与えます。

ペンダントは、固定式と高さ調整可能なモデルの2種類で展開しています。後者には控えめなカウンターウェイトにより、必要に応じてシェードを上下に動かすことができます。ダイニング、作業、読書など、置く場所やシーンに応じて自然に対応し、落ち着いた佇まいが空間に溶け込みます。



BY JULIEN RENAULT



AMANTA SOFA BY MARIO BELLINI

HAY

AN ICONIC ITALIAN DESIGN
REISSUED BY HAY — AUTUMN 2025